

東京医科歯科大学

— 医学部 — 医学科 —

この学科で学ぶこと

さまざまな疾患の治療と予防、健康の保持・増進について学び、動物材料や臨床材料を用いた最先端の基礎的研究を行っていく。日々の学びを通して基礎から臨床にわたる広い分野の知識と技術を習得する。



大学情報 URL <http://www.tmd.ac.jp/>
〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45
統合教育機構 入試課 学部入試係
TEL 03-5803-5084



医学部

歯学部

Overcome COVID-19

大学の対策

重症COVID-19患者を多数受け入れ社会に貢献
大学附属病院はECMOや人工呼吸器を用いて多数の重症患者を治療。基礎研究者はPCR検査をサポートし、全職員が一丸となって感染制御に取り組み、院内感染ゼロを守り、安心・安全な医療を提供し続けています。この経験を生かしてゲノム解析や新薬開発を推進するとともに、次世代を担う医療人材育成を最重要課題として掲げ、全学で取り組んでいます。

学生の対策

教育の空白期間を作らないことを重視
学生に対して「教育の空白期間を作らない」ことを重視し、4月初旬からオンライン授業を開始しています。また優秀な医療者を育成するために不可欠な実習についても感染対策を万全に整えた上、少人数グループ制で開始し、限られた時間で効率よく教育効果を上げるよう、従来以上にきめ細かな指導を行っています。オンラインシステム構築の恩恵によって、海外の協定校との交流授業などを取り入れ、より進化した教育プログラムを提供していきます。

私の学食
オススメ
メニュー

オススメは豚生姜焼き！
5号館の学食は附属病院の患者さんも利用されるので、お昼はすごく賑やかになりますよ。

木村 允己くん
医学部 医学科5年
東京都私立
開成高校卒



本日の講義
5.22 (水)
at 湯島キャンパス
14:20~15:40

放射線診断学

この講義で
学ぶこと

放射線の科学的知識や技術はもちろん、倫理的な知識・技術・能力も同様に身につけていく。また地域貢献は放射線診断科の主要な業務であり、グローバルな視点を持って活躍できる人材や、地域医療の担い手である放射線診断専門医師を育成する。

各診療科の臨床講義の前に 学ぶべき大切なテーマ

「それでは放射線診断学の講義を始めます」

湯島キャンパスに建てられた3号館内の教室で、立石先生の講義が始まった。「臨床医学導入は3年生からなので、この講義の学生たちは臨床医学をまだ学んでいません。放射線診断学の講義は内科、外科、小児科など各診療科の臨床講義が始まる前の段階において、大切な役割を果たします」



さんが放射線診断科の医師と会う機会はないという。

「放射線診断科は、内科、外科、小児科などといったほかの科から検査を依頼される立場にあり、いわば病院の中枢部分です。今後学生たちがどの科にも進んでいけるよう、放射線診断を臨床医学の導入として学んでもらうのです」と立石先生は語る。

では、その講義内容はどのようなものだろう。

CTやMRIとの違いとは？ 核医学の特徴を知る

「この検査は、CTやMRI、そのほかの検査と比べると種類が多い。臓器ごと、あるいは疾患ごとに検査が細かく分かれているためです」

脳だけでも核医学には4種類の検査があり、ほかの臓器の検査を加えると約30種類にのぼる。

「次は臨床核医学について。放射性同位元素（RI）を用いる医学を臨床核医学と呼んでいます。核医学は診断と治療に分かれますが、いずれも対象臓器に適した放射性核種を投与して、体内分布を画像化します。よく知られているCTやMRIは病変の形を画像化しますが、核医学では臓器・組織の機能を画像化するところが特徴です」と立石先生は語る。

そのあと「放射性同位元素について正しい記述はどれか？」「一選べ」という選択問題が出された。「ではさっそく回答してみてください！」クリッカーを使って、全学生が問いに答える。「正

放射線診療は病院の中枢部分 臨床医学の導入として学ぶ

立石 宇貴秀先生に聞きました

Q 今日の講義は、10年後の社会でどのように役立っていますか？

A 本日はお話しする内容は、10年後も変わらない基本的な概念となります。確かに放射線診断科は、機器の進歩とともに診断技術が急激に発達していく領域です。私たちはその進歩についていくタフさも要求されますが、根本の部分は変わらないのです。



Profile

2009年、東京医科歯科大学大学院医学総合研究科医歯学系専攻先端医療開発学講座画像診断・核医学非常勤講師。2014年～現在、東京医科歯科大学大学院医学総合研究科医歯学系専攻先端医療開発学講座 画像診断・核医学教授。

記者の目 東京医科歯科大学は こんな大学



4年生と6年生のときに留学プログラムがあり、自らの選択で海外で勉強する機会が作れます。4年生の研究期間に半年間、6年生では2カ月、あるいは2週間の2つの枠があるそうです。ほかの大学にはあまりない制度で、大きな魅力の一つだと感じました。